



思いをカタチに 地域づくりの輪

このコーナーでは、奥州市民活動支援センターの業務を受託しているNPO法人夢追座が市内で活動する団体を紹介していきます。

NPO法人シェイクス

親と子の目線で

本年度は、市民提案型協働支援事業補助金を活用し、「奥州キッズドリム創造プログラム」事業を実施しました。

8月に開催した「白衣の寺

同じ江刺で生まれ育った同年代のメンバーが集まり意見を出し合いながら、もっと大きな力で幅広く活動できる場、活発な地域にしていきたい――。そう語るのは「NPO法人シェイクス」の高橋和宏理事長です。スポーツを通じた青少年育成と、子育て世代の交流事業や世代間交流を目的として発足しました。

現在のメンバーは10人。メンバーはそれぞれ本業を持ちつつ、鹿踊などの郷土芸能活動やまちづくり活動、バスケットボール・バレーボール・ダンスなどの指導に当たっています。それぞれの得意分野を生かし連携しながら活動を行っていくため、平成30年4月に団体を設立し、同年6月に法人格を取得しました。



白衣の寺子屋。地学研究者の仕事体験で地震の仕組みを学ぶ（左）。歯医者仕事では歯型の模型作りに挑戦（右）

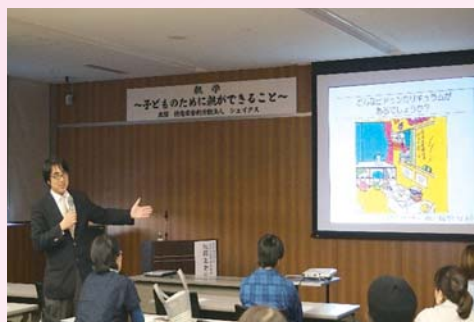


子屋くお寺でお仕事体験」では、子ども向けの職業体験学習として、市内の小学生に地学研究者や歯医者仕事の内容を紹介し、実際に体験しながら学ぶ場を設けました。また、9月には小中学生を対象に、岩手ビッグブルズで活躍する本市出身のプロバスケットボール選手を講師に迎えて「プロスポーツ選手と一緒に体を動かそう」を開催しました。プロ選手になるために努力してきたことや、実践してきたことについて質問を

交えながら話を聞き、一緒に体を動かして交流を図りました。「子どもの頃に体験したこと、将来の夢や目標を考えるときのきっかけになれば」とメンバーは願っています。10月には、「親学く子どものために親ができること」と題して、子育て世代を対象に心豊かな子どもを育てるために親ができることをテーマに講演会を開催しました。講演会後には、地域で活躍する子育て世代の人を中心に、講師や参加者も一緒にあってクレストークを行いました。日頃の子育てに関する悩みなどを分かち合いながら、意見交換をする場となりました。



スロバスケットボール選手と交流



親学での講演の様子

魅力を感じる地域に

これらの活動を通して、子どもたちに夢を持つ機会をつくり、子育て世代のつながりを広げていくことができたことを感じています。「親子で体を動かして触れ合うイベントやフリーマーケットの開催などもやってみたい。刺激を与えたり、もらったりすること自分たちが成長し、魅力を感じる地域にしていきたい」と高橋理事長は思いを語ります。

今後は、他の市民活動団体との連携も視野に入れ、目的達成のために活動が続けていきます。

<今月の表紙>

成人式

1月13日、市文化会館で成人式が行われ、新成人が家族や恩師に感謝するとともに、大人への第一歩を踏み出す決意を胸にしました。写真は「日本一泣ける成人式」として全国的にも知られる恒例記念行事「家族からの手紙、20歳からの手紙」。親からわが子へ宛てた手紙に涙を流す新成人の姿も見られました。【関連記事：10～11頁】



CONTENTS

- 2 キラリ輝く奥州人
- 3 思いをカタチに 地域づくりの輪
- 4 市役所庁舎執務室の配置を一部変更します
- 5 江刺甚句まつりのステージ発表団体・運営ボランティアを募集します
- 6 2019スポニチいわて奥州きらめきマラソン 地域おこし協力隊に新隊員が着任しました
- 7 街diary
- 8 ILC希望のひかり
- 9 せいかつ百科
- 市長コラム「おうしゅう羅針盤」

- 10 成人式 グラフ
- 12 いいところ、知っとこ おうしゅう
- 13 まなびの里
- 14 もっと安心 ずっとおうしゅう
- はい、こちら総合相談室
- 15 トマス・アンナのあんなことこんなこと 姉妹都市 掛川だより
- 16 インフォメーション
- 20 奥州遺産



64

キラリ輝く
奥州人

菅野 至 さん（43歳）

=江刺玉里=

全国から認められる 農作物の生産を目指す

雪が降る中、暖かいハウスでみずみずしく育つホウレンソウ。菅野至さんは、江刺玉里で米や野菜を生産する地元農業の担い手だ。15年前に東京からUターンし、市内の事業所に勤務する。実家では米や野菜作りを手伝っていたが、農業に関わる仕事でたくさんさんの農業者と出会い、交流していくうちに、農業への思いが強くなっていったという。地元で始まった基盤整備を好機と思った至さんは、5年前に農業者への転身を決意し、農業を学んだ。

玉里保育所の子どもたちに収穫の喜びを話す

現在は農事組合法人「きりつぎまる」で副組合長を務める。同法人では、米や大豆、トマトなどを生産。トマトの収穫時期には保育所や小中学校の農業体験を受け入れる。「収穫は最大の喜び。農業体験を通じて地元の素晴らしさを子どもたちに伝えていきたい」と笑顔で語る。未来を見据え、最新技術の導入や新たな取り組みなどを仲間たちと語り合う。「選んでもらえる農作物ではなく、選ばれる農作物に。全国に誇れる農業をしていきたい」と展望を描く。



かんの・いたる◎昭和50年、江刺生まれ。江刺の代表的な郷土芸能「鹿踊」の踊り手。行山流角懸鹿踊に所属し、配列の中心となる中立ちを務める。両親、妻、子ども2人の6人家族